

「トモエ学園」君は本当はいい子なんだよ

アヌシー国際アニメーション映画祭

ポール・グリモー賞 (Paul Grimault Award) を受賞！

こんなニュースが先日、飛び込んできました。『窓際のトットちゃん』のアニメ映画版がポール・グリモー賞 (特別賞) を受賞したそうです。トモエ学園とは黒柳徹子さんが小学校時代通った学校です。本物の電車を教室に使ったり、授業はめいめいが好きな科目を選んで始めることができたそうです。自主的に学ぶことを推奨していた教育方針

で当時、びっくりするような事件を、いくつも起こしていた黒柳さんですが、校長先生は黒柳さんを見かけると、「君は、本当はいい子なんだよ」といつも言っていたと言われています。そうやっていい続けてもらったことが、自分の支えになった、もし、トモエに入ることがなく、小林先生にも逢わなかったら、自分は恐らく、何をしても、『悪い子』というレッテルを貼られ、コンプレックスにとらわれ、どうしていいかわからないままの大人になっていたと振り返っています。黒柳さん以外にも池内淳子さんや津島恵子さんといった俳優の他物理学者をはじめ、多くの有名な人材を輩出したそうです。その要因は校長先生の「目先のことではなく、何十年も先を見越した」教育方針であったことは間違いないと思います。林業では杉は30年、ヒノキは60年という年月をかけてようやく伐採できる大きさとなります。

今がどうであるか…それも大切かもしれませんが、目先のことばかりを見るのではなく、今がどうあっても、将来を見据えて“すべての子どもの可能性”を親も教師も信じ切ることが大切ではないでしょうか。そして「君は本当はいい子なんだよ」と心から思える大人でありたいと思いました。

坂の上から…

毎朝、坂の上に立っていると、校門前の横断歩道を渡ってくる子どもたちの様子がよく見えます。学校だより NO11 で横断後に立ち止まってお礼をした子どものことを書き、各担任からもそのことを話してもらいました。それから約1か月。横断後に運転手に向かってペコリと頭を下げる児童が少しずつですが増えてきて嬉しく思います。停まってくれた車の運転手に軽く会釈をすることで運転手自身は気持ちよく感じて、また停まってくれようとするかもしれません。また、お礼をするために車の運転手の方を見ることで車の動きに注目することができます。減速はするものの停まれなくて横断歩道に侵入してくるかもしれません。



停まってくれることだけに限らず「ありがとう」という気持ちを伝えることはとても大切なことだと思います。「ありがとう」は魔法の言葉です。人と人をつなぐ最善の言葉です。ちょうどよい機会ですので7月11日以降、津市の依頼もあり、「守ってくれてありがとう」運動に取り組むことにしました。今後もこのことについて折に触れ、児童に話をしていく中でどんな些細なことにも「ありがとう」と思える・言える子どもたちを育てていきたいと考えています。



公式ホーム
ページへ